



藤田医科大学
FUJITA HEALTH UNIVERSITY

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

藤田医科大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



藤田医科大学 SDGs 報告書 2022

藤田医科大学 SDGs報告書 2022



目次

報告原則	1
Top Commitment	2
理事長コミットメント	
学長コミットメント	
藤田学園が達成を目指す VISION と SDGs	4
 FUJITA 学援ローンの創設	6
新型コロナウイルス影響による奨学金利用の支援	
 病院食フードロス削減への取り組み	7
家庭の食品ロスを防ぐ寄付活動	
 新型コロナウイルスワクチン大規模接種の実行	8
新型コロナウイルス感染患者の受け入れ	
区域内 PCR 検査の大規模実施	
抗体カクテル療法の動画を公開	
ECMO カーの導入	
ワクチン接種後の抗体価の変化についての研究報告	
 年間 99 件の出張講義を実施	12
4大学での「アセンブリ教育（専門職連携教育）」を実施	
他大学との単位互換事業「医学通論プラタナス」開講	
 女性医師の働き方支援「ジョイフル」	14
キッズコスモス	
 豊明校地の上水道の 6 割に井水を活用	15
 豊明校地での CO ₂ 総排出量を削減	16
 有給休暇の取得を促進「ポジティブ・オフ」運動	17
国産手術支援ロボットを使用した遠隔手術の実証実験	18
「家族が繋がる、人と IT 技術等が共生する健康街づくり実現拠点」が COI-NEXT に採択	
「AICHI ROBOT TRANSFORMATION」への協力	
病院内搬送ロボットの実証実験	
 障がい者雇用の支援「スマイルチーム」の創設	21

 地域包括ケア中核センターの運営	22
地域づくり人材育成支援プログラム	
複数の自治体との連携協定の締結	
地域の医療の質向上に貢献する活動	
 学内リサイクルのプラットフォーム運用	25
 三重大学、浜松医科大学との医療連携協定を締結	26
 総合排水処理施設で年間 27 万 t の排水を浄化	27
 危険廃棄物処理に関する方針	28
 湯澤学長が AJMC 代表として政府・総理に提言	29
 世界の大学が連携して社会課題に取り組む 「THE Asia Universities Summit 2021」を開催	30
2021 年度にプレスリリースした取り組み	31
報告対象範囲	
対象期間：2021 年 4 月～2022 年 3 月	
対象組織：藤田医科大学および藤田医科大学病院群、 法人本部等のすべてを含む学校法人 藤田学園	
参照指標：「SDGs 指標仮訳版」 総務省 「THE Impact Rankings Methodology 2022 Version1.3」 Times Higher Education	
藤田医科大学 SDGs 報告書 2022	
2022 年 8 月 1 日発行	
発行責任：学校法人藤田学園 SDGs 推進室	

報告原則

この報告書は藤田医科大学が、持続可能な開発目標・SDGs の達成に貢献できるように、2021 年度に取り組んだ様々な活動を、できるだけ網羅的に報告しようと試みたものです。SDGs 5 つの主要原則「普遍性」「包摂性」「参画性」「統合性」「透明性と説明責任」を基本に置いて、その活動の目的、概要、成果を報告するよう努めました。

また、各ページの中見出しは、国連の定めた「SDGs 指標」の総務省仮訳版、英國 Times Higher Education の「THE Impact Rankings Methodology 2022 Version1.3」を参照して、その該当項目にアクセスできるように記載をしました。

本学は社会から求められる、「社会」「環境」「経済」「ガバナンス」に関わる分野の情報開示の重要性を認識して、2030 年の Sustainable Development Goals の達成に向けてステークホルダーとパートナーシップをもって取り組む活動を、年次報告するレポートとしております。

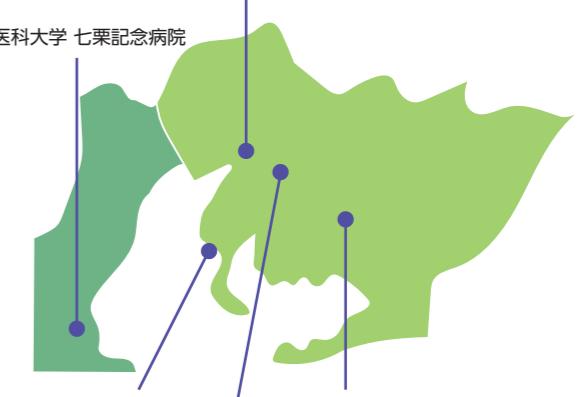
大学情報

大学

藤田医科大学大学院 医学研究科／保健学研究科
藤田医科大学 医学部／医療科学部／保健衛生学部

藤田医科大学 ばんたね病院

藤田医科大学 七栗記念病院



教育病院

藤田医科大学病院	病床数 1,376
藤田医科大学 ばんたね病院	370
藤田医科大学 七栗記念病院	218
藤田医科大学 岡崎医療センター	400

藤田医科大学 大学院

医学研究科／保健学研究科

藤田医科大学

医学部 医学科
医療科学部 医療検査学科／放射線学科

保健衛生学部 看護学科／リハビリテーション学科（理学療法専攻・作業療法専攻）

藤田医科大学病院

所在地 藤田医科大学

〒 470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 番地 98

Top Commitment



2000年9月に開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連宣言を発展させて、2015年に国連サミット加盟国の全会一致で採択された、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」として記載されたものが、現在広く世界

中で取り組まれているSDGsです。これは2030年までに、「持続可能なより良い世界を達成する」という国際目標で、17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上に「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能なより良い世界を達成する、という大きな目標を掲げています。

藤田学園では、2015年に作成したビジョン2025で、「教育」「研究」「医療・福祉」の分野にて、当初より社会課題の解決や社会の要請に応えることを目指しており、既にSDGsに該当する活動に取り

組んできております。さらに、今年度、社会貢献を一層重要視したFujita VISION 2030「その時、いちばん動ける藤田学園へ 藤田学園はあらゆる社会課題に ALL Fujita の力で応えます」を新しく策定して、その方向性は一貫しております。

中長期での解決が必要な課題としてSDGsで掲げられている健康と福祉の問題、国際的な教育課題や働きがいのテーマ、医療イノベーションの発展、地域ケアを通した街づくりや産学官での連携した取り組み等、様々なステークホルダーの皆さんと手を携え、これまでの藤田学園の実践をさらに発展させることで、持続可能な素晴らしい社会の実現に貢献していきたいと考えております。

藤田学園 理事長
星長 清隆

持続可能な開発目標、SDGsというものを意識する以前から、本学は伝統的に社会貢献の意識が高く、その象徴である救急患者を断らないという大学病院のモットーも永く受け継ぐものです。

社会と患者さんのため、できる限りの努力をする方針は、およそ2年前に国難ともいえる新型コロナウイルスのパンデミックが始まった危機にその真価を問われたよう思います。国内で集団感染がまだ拡がる前の2020年2月、ダイヤモンド・プリンセス号感染者受け入れの国への要請に応えて以来、愛知県内の医療施設では最も多くの患者さんを受け入れ、ワクチン大規模接種の実施・運営も県内

でいち早く行うなど、率先をして取り組んできました。コロナ以前からも、医療安全に強いまちづくりに力を入れてきており、地域包括ケアを中心として、地域の医療機関との密接なアライアンスもできています。

さらに今後は、企業や自治体との連携を深めて、新たなヘルスケアの仕組みをつくる「人とITが共生する健康なまちづくり」や、基幹災害拠点病院として広域災害医療体制を強化する「災害に強いまちづくり」にも取り組んでいきます。

これからも、SDGsの達成と世界の未来に貢献できる藤田医科大学として、大きな使命を果たしていきたいと考えております。

藤田医科大学 学長
湯澤 由紀夫



藤田学園が達成を目指す VISION と SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

藤田学園は、2015年に策定した「学園ビジョン 2025」の先行達成を基盤に、2022年、新たに「Fujita VISION 2030」を定め、「研究」「教育」「医療・福祉」「経営」の4分野に加え「社会貢献」という柱を立て、その達成を目指しています。それは同時に、人類社会共通の目標「SDGs 17 ゴール」の達成に重なる活動として意識し、現在・未来の社会に貢献していくものです。

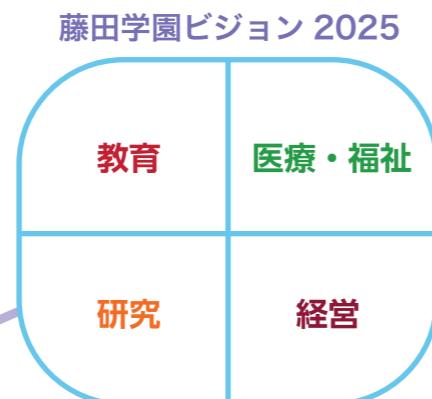
建学理念

「独創一理」

病院理念

我ら、弱き人々への無限の同情心もて、
片時も自己に驕ることなく医を行わん。

"With infinite sympathy for the afflicted,
we provide medical care at all times
without self-praise or self-satisfaction."



2015年策定
2021年 前倒しで達成

1964
学校法人藤田学園設立

1971

藤田学園名古屋保健衛生大学
ばんたね病院
(現 藤田医科大学 ばんたね病院) 開設

1987

藤田学園保健衛生大学
七栗サナトリウム
(現 藤田医科大学 七栗記念病院) 開設

2018

大学の名称を藤田医科大学に変更

1968

名古屋保健衛生大学開学

1973

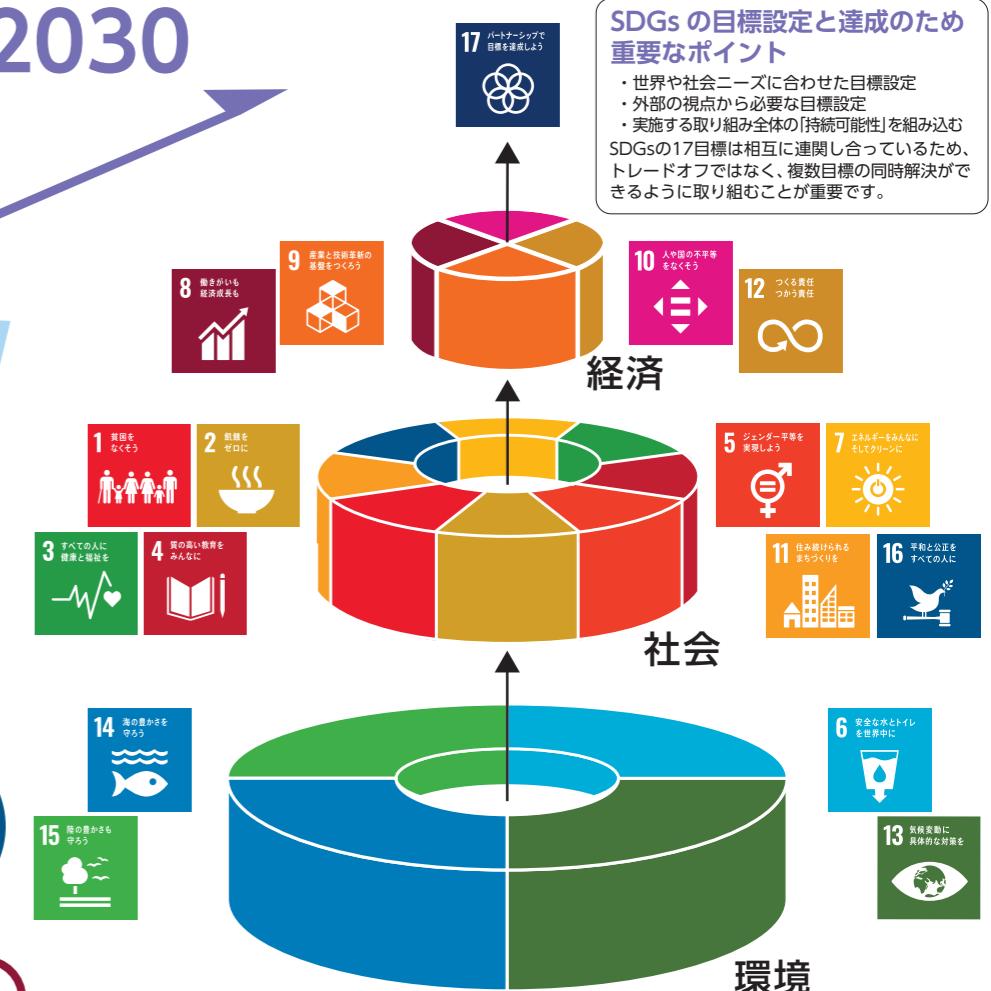
藤田学園名古屋保健衛生大学病院
(現 藤田医科大学病院) 開設

2020

藤田医科大学
岡崎医療センター開設

Fujita VISION 2030

2030



SDGs ウエディングケーキモデル

持続可能な開発目標の17のゴールの関係性を可視化するモデルのひとつで、ストックホルムにあるレジリエンス研究所の所長だったヨハン・ロックストローム博士によって考案された。経済・社会・環境の3層から成り、「経済」は安定した「社会」の上に、「社会」は生物圏の基本である「環境」に支えられていることと、それぞれに関連するゴールを表している。



貧困をなくそう NO POVERTY

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

経済的困難がある学生の支援



FUJITA学援ローンの創設

世帯所得の不足のために医学部進学を断念する学生をなくしたい。優秀な学生が、将来医師となって市民を救う機会を経済的な理由で失うことがないように、2021年12月、藤田医科大学は家庭の所得に関わらず学生が医師となる道を支援する「FUJITA学援ローン」の制度を創設しました。これは、藤田学園が連帶

保証人となることで、金利1%の低利で6年間の学費全額にあたる2,980万円の融資を受けられる学生支援制度です。2021年度に行った入試から募集を開始した結果、審査に合格した4名の内、2名が本学に入学し、その適用を受けることになりました。

*「FUJITA学援ローン」は提携する東海東京証券株式会社が提供する教育支援ローンです。



飢餓をゼロに ZERO HUNGER

飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

食品の無駄の削減



病院食フードロス削減への取り組み

藤田医科大学病院では、年間約113万食（2021年度実績）の病院食を入院患者さんに提供しています。温度管理ができるニュークックチルシステムを導入し、温かい料理は温かく、冷たい料理は冷たく提供し、安全かつおいしい食事で必要な栄養分を摂取し、食べ残しが減らせるよう日々、メニューの改善に取り組んでいます。調理後の料理を冷蔵・冷凍保存し利用することができるため、導入前に比べ約27%食材ロスの削減が可能となり、フードロスを削減したいという現場の栄養士、調理師の思いを実現化することができました。また、2019年度に導入した、生ごみを微生物で分解処理する生ごみ処理機により、年間約36t出る生ごみの排出量を0にして、焼却CO₂削減につなげることができました。

家庭の食品ロスを防ぐ
寄付活動

フードロス削減の取り組みとして、教職員の家庭で消費されない食品を持ち寄り地域の福祉施設や自治体に寄付する活動を行いました。2021年12月には、全教職員を対象に食品の受付を行い、各病院から合計5施設に寄付いたしました。

中日青葉学園への寄贈式では、学園長および学園の子ども達へ約1250品目の食品を手渡し、ボランティアスタッフが作成したお守りなどもプレゼントしました。





すべての人に健康と福祉を GOOD HEALTH AND WELL-BEING

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

協働および公共医療サービス



新型コロナワクチン大規模接種の実行

基幹災害拠点病院として緊急事態の地域と社会に貢献するために、2021年5月、新型コロナの感染拡大を抑止する切り札として、藤田医科大学病院は、地域住民を対象とするワクチンの大規模接種を開始しました。政府主導の東京・大阪会場と同日に大学体育館を会場として設置、民間施設としては国内初の運営となり、7月には岡崎医療セ

ンターでも運営を開始しました。対象は、豊明市と近隣の名古屋市などの自治体住民から始まり、愛知県と密接な連携を取りながら、職域接種、医療者・学生接種なども含めて、2022年3月時点で41万件の接種を完了しています。危機的状況に対応すべき大学の使命として、3回目以降接種も推進して地域の集団免疫の獲得に貢献しました。

- 9 経済と技術革新の基盤をつくる
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 16 和平と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

感染症への対処



新型コロナウイルス感染患者の受け入れ

新型コロナウイルスによる未曾有の国難から市民の命と安全を守るために、藤田医科大学病院群では、24時間昼夜問わず重症・中等症の新型コロナウイルス感染患者を中心に受け入れを行いました。特に、重症者については、ICUの病床不足をカバーし、県内の救急医療体制を維持するため、病床数を調整しながらECMO治療等を担いました。合併症を持つ感染者

や妊婦など他の病院では受け入れの難しい患者の最後の砦として対応し、2022年3月時点で、藤田医科大学病院、ばんたね病院、岡崎医療センターを合わせて2520名の入院患者を受け入れています。県内の医療機関としては最多の受け入れ人数であり、県外からのECMOカーによる患者の受け入れも行いました。

- 10 人や国の不平等をなくす
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

感染症への対処

圏域内 PCR 検査の大規模実施



2020年8月から始まった愛知県のPCR検査の受託は、中部国際空港でのPCR検査センターの運用受託、川崎重工業の自動PCR検査コンテナの国内初導入等により、1日当たり最大4000件となる国内施設最多レベルの検査体制を2020年度末に構築し、21年度を通して運用をしてきました。医療従事者への負担・感染リスクを減らすロボットによる自動検査システムを駆使して、愛知県の保健所、中部国際空港利用の渡航者、藤田3病院での受付検査等に加えて、大学病院への入院患者を含め2022年3月時点で累計89000件の検査を実施しています。



抗体カクテル療法の動画を公開



2021年9月、藤田医科大学病院は、地域の病院・クリニック等が新型コロナウイルス感染患者を受け入れるためのサポートとして、抗体カクテル療法の運用に関するノウハウをまとめた動画を製作しHP上で公開しました。抗体カクテル療法は、発症から7日以内の軽症者への投与で重症化抑制の効果がある治療法で、第5波の感染拡大の中で多くの患者さんの治療に役立ちました。公開後は、愛知県内のみならず県外の医療関係者からも質問や相談を受け、多くの医療機関に活用していただきました。



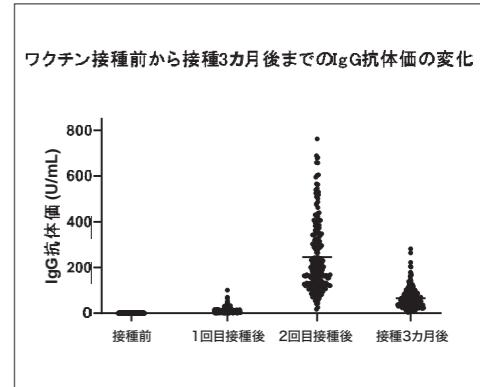
ECMO カーの導入



藤田医科大学病院は、2021年8月、新型コロナウイルス感染患者に人工心肺装置「ECMO（エクモ）」を装着したまま搬送することができる「ECMO カー」を、中部地方で初めて導入しました。医師や看護師、臨床工学技士など3～4名が乗り込み、集中治療を行ながら搬送できるのが特長で、「走る ICU（集中治療室）とも呼ばれる大型の特殊緊急車両です。ECMO を使う治療では、2021年2月には富山県から ECMO カーで運ばれた重症者の治療も担いました。



ワクチン接種後の抗体価の変化についての研究報告



2021年7月、本学大学院保健学研究科の研究グループは、教職員219名が参加した、国立感染症研究所、富士フィルム和光純薬、富士フィルムとの共同研究において、新型コロナウイルスワクチン接種後の血液中の抗体価が、2回目接種後に大幅に上昇すること、男性は女性よりも少なく、特に男性は年齢が高いほど少ない傾向があることを明らかにしました。また、8月には、接種3ヵ月後の抗体価の平均値は2回目接種後に比べて約1/4に減少することを発表し、3回目接種の必要性を検討するための科学的根拠を社会に提供しました。





質の高い教育をみんなに QUALITY EDUCATION

すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

公共イベント（生涯学習）



年間99件の出張講義を実施

本学の教職員が教育機関・自治体に出向いて、医療や健康に関する様々なテーマで出張講義を行っています。2021年度は99件の講義を実施し、一般市民の方から専門職の方まで幅広く受講いただきました。中でも、「アナフィラキシー対応講習会」は、学校において食物アレルギーの子どもたちをサポートするためのシステムを確立するため、愛知教育大

学と共同で、保育園・幼稚園・小中学校で33回実施しました。この講習会の特徴は、座学だけでなく実際に針の出る練習用注射器と子どもの筋肉の硬さを持った人形を使用し、今まで実際に注射したことがない保育士や教員に実践していただく点にあります。今後も社会貢献として養成を行っていきます。



キャンパスを越えた教育アウトリーチ



4大学での「アセンブリ教育（専門職連携教育）」を実施

開学以来の伝統がある「アセンブリ教育」は、医学部、医療科学部、保健衛生学部の学生が1年次から一緒に集まり、多職種連携でのチーム医療の基本を体得する藤田独自の教育プログラムです。2016年からは、患者中心医療の精神を更に社会に拡げるために、キャンパスを越えたアウトリーチ活動として他大学との共同講座を開始しました。現在は、3年

次に日本福祉大学、名城大学、愛知学院大学の医療系学生と共に、「患者中心」の考え方を基本に置いたTBL（Team-based Learning）による実践的学修を3日間にわたって行っています。2021年度は、オンライン開催となりましたが、1000名を超える学生が同時に受講し、他者をリスペクトする精神と専門職連携の基盤となる部分を学びました。



他大学との単位互換事業
「医学通論プラタナス」開講

2021年4月、Web配信を活用した単位互換推進プログラム「医学通論プラタナス」を開始しました。現在の医学・医療に関する幅広いテーマについて、医療系以外の学生も興味深く受講できるような内容として、本学教授陣等が年間全24回の講義を行い、本学学生に加えて、愛知学院大学、岐阜医療科学大学の学生のべ700名超の受講がありました。2022年度も引き続き、単位互換科目として、他大学の学生にも提供しています。

5 ジェンダー平等を実現しよう



ジェンダー平等を実現しよう GENDER EQUALITY

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

職員の子育て支援に対する行動



女性医師の働き方支援「ジョイフル」

男女共同参画を進める取り組みとして、藤田医科大学病院では女性医師・研究者キャリア支援室「ジョイフル」が、女性医師・研究者の働きやすさ向上のための活動を行っています。女性が医師・研究者として働き、出産、育児などを経てキャリアを継続していく様子に応じた働き方の支援を行っています。24時間いつでも利用できる女性専用のジョ

イフルサロンの運営、講演会やミーティングの実施、情報提供などを職場環境改善や共感、学び、励ましにつなげ、多様な人材の能力を最大限に発揮できるように支えたいと考えています。2021年度からは、「マタニティ白衣」の貸し出しサービスを開始して、利用者から感謝の声が寄せられました。



キッズコスモス

女性の就労・就学支援として、本学豊明校地内に学園が運営する託児施設「キッズコスモス」を設置しています。小学校就学前までの月極・一時保育を、2021年度はのべ119名の教職員が利用しました。また、内閣府の子育て支援新制度として開始された、ベビーシッター利用助成制度を2022年1月から導入し、多くの教職員がより業務に専念できる環境づくりをサポートしています。

6 安全な水とトイレを世界中に



安全な水とトイレを世界中に CLEAN WATER AND SANITATION

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

キャンパス内の持続可能な水の抽出



豊明校地の上水道の6割に井水を活用

水資源の利用効率を改善して淡水の持続可能な採取と供給確保に貢献する取り組みとして、藤田医科大学では、1971年より順次豊明校地内に専用の井戸を掘削して、年間約28万5千m³の井水を上水道の代替として利用しています。水質の安全性は、210m³/時の処理が可能な井水専用の浄水処理施設を建設して、水道法に基づく水質検査を1カ月に1回実

施することで、安全な水質を担保し、藤田医科大学病院も含めた構内の上水への給水を行っています。施設についても、保守業者による毎月の点検整備と維持管理を行います。これらの施策を複合的に実施することで、環境への負荷を低減させ地域全体での有効な水資源活用が可能となるよう継続的に取り組んでいきます。

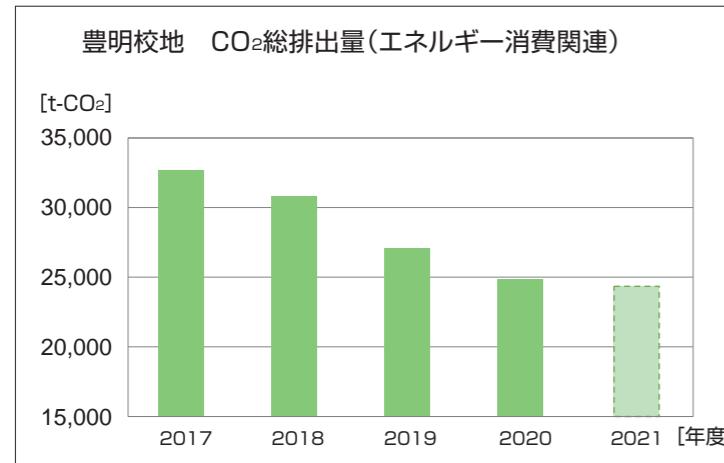




エネルギーをみんなに そしてクリーンに AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY

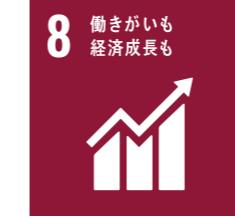
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

エネルギー効率の継続的改善



豊明校地でのCO₂総排出量を削減

本学は、施設全体で省エネルギーに取り組みエネルギー効率を改善して、総エネルギー使用量の抑制を進めてきました。2015年の病院A棟の開棟時に、エネルギーセンターを建設し、高効率の熱源機器やコーディネレーション設備を導入して、廃熱再利用と電気とガス機器の最適化運転を行うことで、19年度にはエネルギー消費量を大幅に削減しました。敷地内各所への蒸気供給についても、大型ボイラー供給を廃止し、小型貫流ボイラーを各所へ分散設置することで搬送ロスの削減を実現しました。LED照明器具への更新も含めた継続的な施策を実施した結果、2021年度はエネルギー総消費量は増えましたが、CO₂総排出量は前年度を下回る見込みとなりました。(2022年6月現在)



働きがいも 経済成長も DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH

包摶的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

働きがいのある人間らしい仕事の達成



有給休暇の取得を促進「ポジティブ・オフ」運動

職員にとって働きがいと働きやすさを感じられる職場にしたい。ワークライフバランスの実現のため、本学は有休取得促進キャンペーン「ポジティブ・オフ」運動を推進しています。これは、休暇を取得して外出や旅行などを楽しむことを積極的に促進し、休暇(オフ)を前向き(ポジティブ)にとらえて楽しもう、という政府が提唱する運動です。実質的な取

得を進めるため、アラート通知等により全職員への徹底をはかっています。2021年度の有休取得率は59.1%となっており、これからも、職員の豊かなライフスタイルの実現、長期的な企業価値向上、そして社会経済の再生・活性化に貢献するべく、働きやすい環境を整えていきます。





産業と技術革新の基盤をつくるう INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE

強靭（レジリエント）なインフラ構築、包摶的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

イノベーションの促進



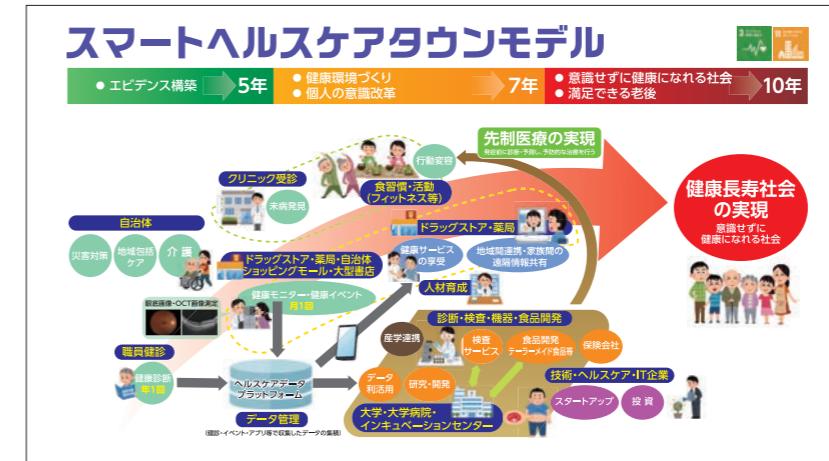
国産手術支援ロボットを使用した遠隔手術の実証実験

安心安全な最先端技術をより多くの患者さんに提供できるよう、ロボット支援手術に先駆的に取り組んできた本学は、国産手術支援ロボット「hinotori™」を用いた、遠隔によるロボット手術の国内初の実証実験を2021年5月に実施しました。岡崎医療センターの手術室に「hinotori™」のサージョンコックピットを設置し、約30km離れた藤田医科大学研究施設

のオペレーションユニットで臓器モデルを模擬手術し、タイムラグや操作の正確性などを確認しました。地方の外科医不足の解消、医療従事者の負担軽減や業務の効率化を図り、質の高い医療を持续的に提供できる環境を整えることを目的としています。今後は安定した通信環境を構築することで、将来の遠隔手術の実現に向け取り組んでいきます。



持続可能なインフラの開発



「家族が繋がる、人とIT技術等が共生する健康街づくり実現拠点」がCOI-NEXTに採択

2021年10月、本学の「家族が繋がる、人とIT技術等が共生する健康街づくり実現拠点」事業が、科学技術振興機構（JST）の2021年度「共創の場形成支援プログラム：COI-NEXT（育成型）」（地域共創分野）に、育成型13拠点の内の1つとして採択されました。「意識せずに健康になる社会、スマートヘルスケアタウンの実現」のために、ドラッグストアで

の眼底画像検査や、健康診断、食習慣、薬歴データなどの管理プラットフォームの構築により、疾患の早期発見・治療やリスク予測などにアプリを活用する仕組みの構築を目指します。豊明市、スギ薬局、トプコン等の自治体、企業と協働して、未病早期発見／先制医療の実現に向けた研究開発を進めます。



イノベーションの促進

「AICHI ROBOT TRANSFORMATION」
への協力



愛知県主催のサービスロボット社会実装推進事業「AICHI ROBOT TRANSFORMATION」に協力して、藤田医科大学病院では、2021年12月に「WHILL自動運転モビリティサービス」と多用途搬送ロボット「MELDY」、2022年2月に「遠隔面会サイネージ」の実証実験を行いました。来院者を自動で目的地に運ぶ「WHILL」での移動支援と、脱着型カートで薬剤を自律搬送する「MELDY」での医療職支援、患者と家族や医療職を繋ぐ「遠隔面会サイネージ」など、医療現場でのイノベーション推進に貢献しています。



病院内搬送ロボットの実証実験



AI ホスピタル構想を進める藤田医科大学病院では、医療従事者の負担軽減・業務効率化による質の高い医療の持続的提供の実現に向けた取り組みとして、2022年2月、川崎重工業と共に病院内搬送ロボットの実証実験を行いました。実験はフェーズ2の段階で、アーム付きロボットによる位置情報把握サービスと別フロアへの検体搬送・見守り作業の検証を行いました。エレベーター搭乗を含めた検査室からスタッフステーションまでの自律走行実験では、貴重な実績データを得られる結果となりました。



人や国の不平等をなくそう REDUCED INEQUALITIES

各国内及び各国間の不平等を是正する

障がいを持つ職員の募集



障がい者雇用の支援 「スマイルチーム」の創設

障がい者の方もイキイキと働ける職場にしたい。障がいを持つ方々の就労機会と活躍の場の創出のため、学園では「スマイルチーム」を結成しました。チームは障がいのある方とサポートスタッフ、アドバイザーとして医師も含む構成になっており、入職後のフォローを行う体制を整えています。担当業務として大学構内の清掃・消毒を

担っており、2021年度は8名新規採用し、年度末時点で9名在籍しています。将来的には大学内だけではなく学園全体で障がい者の方が活躍できるよう、業務レパートリーの拡大を進める計画です。今後とも、障がい者の方を含む職員全員が働きがいを持ち、より長く働ける環境づくりに努めています。



11 住み続けられる
まちづくりを



住み続けられるまちづくりを **SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES**

包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

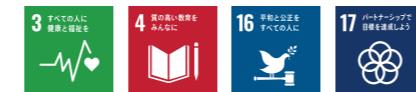
包摂的かつ持続可能な都市化の促進



地域包括ケア中核センターの運営

地域の在宅医療と介護の連携を支援する仕組みとして、本学は2013年から大学病院を擁する学校法人としては国内初となる「地域包括ケア中核センター」を設置、運営しています。2015年には大学に近接するUR豊明団地内に「ふじたまちかど保健室」を開設して、本学教職員による無料の健康相談や団地に住みこむ学生が高齢者の孤立化防止、買い物支援な

どのサポートを行っています。2021年度には101回の健康教室を開催して、のべ739名の参加がありました。また、豊明市、東郷町、幸田町等の自治体と連携し、介護支援事業所や訪問看護ステーション、医療介護サポートセンターなどの運営も行っています。これらの地域の健康づくりの支援を通じて、地域医療に貢献できる人材を育成しています。



持続可能な人間居住計画・管理能力の強化



地域づくり人材育成支援プログラム

超高齢化社会が進む中で、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供するため、「地域づくり人材育成支援プログラム」を開発し、提供しています。地域包括ケアシステムの推進を担える専門職人材の育成に加え、介護保険の保険者である市

町村への支援を行う取り組みとして、本学の知見やノウハウ等を活用し市町村の介護予防・日常生活支援総合事業や地域づくりにフォーカスを当たったプログラムとなっています。この取り組みを通してこれまで全国52の市町村を支援し「普及展開の手引き」を厚生労働省と作成しました。今後もさらに継続して全国的に普及することを目指します。



包摂的かつ持続可能な都市化の促進

複数の自治体との連携協定の締結



2021年7月、本学は三重県津市と包括連携協定を締結しました。保健福祉、生活安全、教育文化、交流、まちづくり等の分野で、相互に協力し地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とした自治体との包括協定としては、8カ所目の締結となります。また、8月には東郷町・東名古屋東郷町医師会と災害時の医療救護等に係る連携協定を締結しました。平時より連携・協力することで、災害時の円滑な医療救護体制の構築を目指すもので、人材派遣、物的支援、平時の防災でも協力します。本学は自治体、地域と連携を深めて、持続可能なまちづくりに貢献します。



地域の医療の質向上に貢献する活動



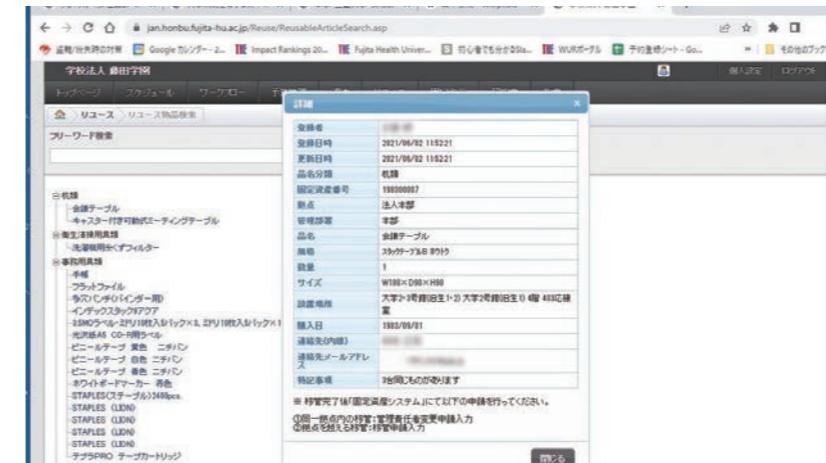
地域住民が適切、迅速に必要な医療・介護サービスを受けられ、安心して暮らせるまちづくりに貢献したい。藤田医科大学病院が中心となって設立した、全国最大規模の地域医療連携推進法人「尾三会」は、医療と介護のシームレスな連携による患者を中心の医療を、人材育成、人事交流、共同利用等の面から支えています。2021年度は、法人社員32施設の職員を対象に「新型コロナ感染対策の基本」等の研修プログラムを、本院スタッフが講師となりオンラインを中心に16回実施し、のべ333名の参加を得て、地域の医療の質向上に貢献しました。



つくる責任 つかう責任 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION

持続可能な生産消費形態を確保する

使い捨て品目の最小化



学内リサイクルのプラットフォーム運用

学内の基幹システム上に、各部署で不要となった物品の情報を登録し、まだ使える物品だが所有部署では不要となったもの等を有効活用できる学内のリサイクル促進プラットフォームを、職員の自発的な取り組みとして運用しています。

2018年の大学病院の旧1・2号棟の病棟解体時に什器等の廃棄物が発生し、まだ使用可能なロッカーなどがあつたが、一時置きする場所や再利用を

呼び掛けるツールが無くやむなく廃棄したことを発端に、廃棄予定期の事前に再利用を案内できるツールを整備しました。職場ごとに各自が登録し、必要な部署から連絡をする仕組みになっています。

事務機器、備品を中心に、年々少しづつ利用も増加してきており、2021年3月末時点では、32品目がリサイクル使用のために、登録されています。





気候変動に具体的な対策を CLIMATE ACTION

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

気候変動・自然災害に向けての協働企画



三重大学、浜松医科大学との医療連携協定を締結

藤田医科大学は、2022年3月、大規模自然災害に備えて、三重大学、浜松医科大学と3大学での医療連携協定を締結しました。それぞれの大学病院が地震、津波、豪雨被害などの自然災害でその機能を果たせない場合に、協定先の大学病院が、相互に患者の受け入れや医療機器の提供、医療者の派遣等を被災病院に行い、高度医療の維持を支援します。藤田

医科大学病院は、1376床を有する国内最大規模の大学病院であり、愛知県の「基幹災害拠点病院」として、災害時には地域における医療救護の中心となる役割を担っています。そのうえで、3大学病院での相互支援を行うことで、広域災害においても多重的なセーフティーネットの強化を図るとともに、地域の防災機能向上に寄与することを目指しています。



海の豊かさを守ろう LIFE BELOW WATER

持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

排水ガイドライン



総合排水処理施設で年間27万tの排水を浄化

海洋の環境を保全するための重要な要素として、排水の適切な水質管理を行う必要があります。藤田医科大学と大学病院群では、総合排水の中の生活排水と実験排水をそれぞれの基準で処理をしています。生活排水については、豊明校地内に2棟からなる専用総合排水処理施設を保有して、3次処理までの生物処理と濾過、浄水化を行い敷地外へ排出しています。水質検査としては、法定を越える学内基準を定めて、毎月の施設部による自主検査と、年間4回の愛知県薬剤師会への外部委託による有害6項目を含む最大34項目の検査を実施します。実験排水については建物ごとの排水ピット検査も年2回実施しており、2021年度は学園の4校地全体で、のべ37回の検査を行い、排水の水質管理を徹底しました。





陸の豊かさも守ろう LIFE ON LAND

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

土地に配慮した廃棄物処理



危険廃棄物処理に関する方針

藤田医科大学、大学病院群で発生する廃棄物は、様々な種類別に分別されたうえで、厳格な管理の下で廃棄され、リサイクルされるか、最終処分されます。主に、研究部門から排出される、「実験系廃棄物」については、優良認定を受けた委託事業者により、硬質廃プラスチック類は破碎、焼却処理、ガラス屑陶磁器屑等は埋め立て処分され、実験器材の一部には選別されリサイクルされる金属類もあります。「実験廃液および廃試薬

類」については、毎月約20種類に及ぶ薬類を種別毎に適正な中和処理や焼却処理を行って、セメント材料へのリサイクル、サーマルリサイクル発電などに使われるものもあります。病院から出る「感染性廃棄物」については、藤田医科大学病院医療廃棄物規程（1992年施行）に則り、学内での指定された容器、保管施設を使用して、最終的に委託事業者で大部分を焼却処理をして、残りの一部が埋め立てや再利用となります。



平和と公正をすべての人に PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

政府に専門家として助言



湯澤学長がAJMC代表として政府・総理に提言

一般社団法人全国医学部長病院長会議（以下 AJMC）は、全国82の国公私立大学の医科大学長または医学部長、および附属病院長を会員として、医療機関共通の教育、研究、診療の諸課題を協議し、わが国の医学と医療の改善向上に資する活動を行っています。藤田医科大学 湯澤由紀夫学長は、AJMCの会長を2020年5月から務め、日本政府の医療政策作りに

関与する提案活動を積極的にリードしてきました。2021年度は、AJMCとして要望書を3回、声明を2回発表し、特に「新型コロナウイルス感染症の治療で大学病院が果たすべき役割」に関しては2020年度から4回にわたり、内閣府、総務省、厚生労働省、文部科学省などに対し政策反映に資するため、専門家としての助言を行いました。



17 パートナーシップで目標を達成しよう



パートナーシップで目標を達成しよう PARTNERSHIPS FOR THE GOALS

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

SDGsに関する分野横断的な対話



世界の大学が連携して社会課題に取り組む 「THE Asia Universities Summit 2021」を開催

本学は、日本初のホスト大学として、2021年6月1日～3日の3日間、ノーベル賞受賞者や世界の大学学長らが参加する「THE Asia Universities Summit 2021」をオンライン形式で開催いたしました。「Crossing boundaries, unlocking creativity」をテーマに、高齢化社会、国際交流の進展など、日本をはじめとするアジア諸国が直面している課題に加

え、AIなどグローバル社会全体が直面している大きな課題について、26プログラムで68名の登壇者による活発な議論が行われました。30カ国・地域から612名の登録、442名の大学長・企業関係者らの参加を得て、大学が国や学問領域などの境界を越え、創造的かつ革新的に取り組むための対話と出会いを創り出しました。



■ 2021年度にプレスリリースした取り組み

藤田医科大学、藤田医科大学病院群が2021年度にプレスリリースした様々な活動について、関連するSDGs項目を表示しています。

発表月日	プレスリリース	関連するSDGs
2021.4.15	新たなミトコンドリア病とその原因遺伝子を世界で初めて発見	4 9 17
4.16	「THE Asia Universities Summit 2021」を6月1日から3日にかけて本学にて日本初開催	1 ~ 17
4.21	名古屋市緑区に訪問看護ステーションを開所	11 16 17
4.30	地域医療連携推進法人尾三会による看護師復職サポートプログラムの実施	4 11 17
5.7	新型コロナウイルス感染症対応への支援を込めて、一般社団法人中京馬主協会よりご寄付いただきました	11 17
5.11	新型コロナウイルス感染症患者血清中の抗体解析の結果、受容体結合ドメイン（RBD）に対するIgG抗体の測定が中和活性を最もよく表すことを解明	4 9 16 17
5.12	本学間を専用回線で結んだ「hinotori™」を用いた遠隔模擬手術の実証実験を公開	4 9 11 17
5.14	新型コロナワクチンの大規模接種会場を5月24日から運用開始します	9 11 16 17
5.20	大規模集団接種用新型コロナワクチンの本学接種分を5月23日に受け取ります	9 11 16 17
5.28	「新型コロナワクチンと治療薬開発の現状と将来」市民公開講座を開催	4 11 17
5.28	日本初の「THE Asia Universities Summit 2021」が世界26カ国400名の参加を得て、オンラインでいよいよ開幕	3 1 ~ 17
6.2	日本式病院マネジメントを紹介した映像教材を本学監修でJICAが制作	4 11 16 17
6.4	大規模接種会場にて豊明市・大府市・日進市・東郷町・刈谷市の新型コロナワクチン接種を開始	9 11 16 17
6.11	岡崎医療センターにて新型コロナワクチンの大規模接種会場の運用を開始	9 11 16 17
6.15	多胎パパママ教室「Fujita多胎Smileサポート」を開講	4 5 10 11 17
6.17	介護・リハビリ支援ロボットの相談窓口を学内に設置	4 9 10 17
6.28	遺伝子検査サービスを提供する「ジェノニクス株式会社」を設立	4 9 17
6.29	ワクチン大規模集団接種や職域接種実施に役立つ会場運営のノウハウを盛り込んだ動画を制作・公開	4 11 17
7.2	通常の治療が効かない統合失調症を救うための薬剤クロザピン治療における遺伝子検査の有用性の報告	4 9 17
7.5	新型コロナワクチン大規模接種会場を応援し、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社よりご寄付いただきました	11 17
7.6	加熱殺菌したビフィズス菌が抗ストレス効果をもたらす研究結果を発表	4 9
7.8	中部地方初の取り組みとして手術を受けるがん患者に無料ゲノム検査実施	4 9 17

発表月日	プレスリリース	関連する SDGs	発表月日	プレスリリース	関連する SDGs
7.9	藤田医科大学と津市との包括連携協定を締結	11 16 17	11.4	名古屋市緑区医師会と災害時の医療救護等に係る協定を締結	11 13 16 17
7.12	遺伝子の構造が「密」になると遺伝子の働きが抑制されると本学研究グループが解明	4 9 17	11.8	IL-36Ra が皮膚虚血再灌流障害に深く関与することを世界で初めて発見	4 9
7.14	日本メナード化粧品株式会社と共同で抗老化の新しいターゲットタンパク質を発見	4 9 17	11.24	「ロボカップアジアパシフィック 2021 あいち」にリハビリテーション（活動支援）ロボットを展示	4 9 17
7.20	日本メナード化粧品株式会社と共同で皮膚から老化細胞が排除されるメカニズムを解明	4 9 17	11.25	ホーユーとの共同研究でヘアカラーの即時型アレルギー診断に有用な特異的 IgE 抗体検査法を確立	4 9 17
7.26	ファイザー社の新型コロナワクチン 2 回目接種後に抗体が大幅上昇することを解明	4 9 16 17	11.25	日本初 国産手術支援ロボット「hinotori™」による仙骨膿固定術に成功しました	4 9 17
7.27	世界初として生体深部のタンパク質を遠隔操作する光遺伝学新技術を開発	4 9 17	12.14	自動運転ロボットおよび多用途搬送ロボットの計 2 機による実証実験を公開	9 17
7.29	皮膚の色素沈着を調節する新たなメカニズムの国際共同研究の結果が「Cell」に掲載	4 9 17	12.14	“変形性膝関節症” の最新治療、先進的な再生医療「APS 療法」を導入	4 9 17
7.29	オンライン市民公開講座「新型コロナワクチン接種のすすめ」無料公開	4 11 17	12.15	主要組織適合遺伝子複合体（MHC）のクラス分岐の進化過程に重要な 3 つ目のカテゴリーを発見	4 9
7.29	東郷町・東名古屋東郷町医師会と災害時の医療救護等に係る協定を締結	11 13 16 17	12.16	慢性腎臓病患者の腎機能保護療法としての塩分摂取制限・カリウム摂取制限の観察評価について発表	4 9 17
7.30	電力データと AI によるフレイル検知技術を活用した予防・改善プログラムの構築・推進に関する協定を締結	4 9 11 17	12.20	SDGs 「フードロス削減」への取り組みとして家庭で消費されない食品を集め社会福祉施設へ寄付	1 2 7 12 15
7.30	小中学生が Web でロボット支援手術を体感できる「オンラインメディカルキッズプログラム 2021」を開催	4 9 17	12.27	本学医学部に入学する学生向けのローン「FUJITA 学援ローン」の提供を開始	1 4 10
8.16	タンパク質の設計図であるメッセンジャー RNA から短い不必要断片を取り除く新しい因子を発見	4 9 17	2022.1.17	新型コロナワクチンの 3 回目接種用大規模接種会場を開設	9 11 16 17
8.25	ファイザー社の新型コロナワクチンで接種約 3 カ月後に抗体値が低下することを本学職員での実証実験で確認	4 9 16 17	1.20	脳神経系タンパク質のリン酸化をまるごと理解 データベース「KANPHOS」を公開	4 9 17
9.2	藤田医科大学ばんたね病院 加藤庸子教授が「AANS International Lifetime Recognition Award」を女性脳外科医として世界初受賞	4 5 9 17	1.20	血液疾患治療中・治療後の患者の一部で新型コロナワクチン接種後の抗体獲得が困難であることを確認	4 9 17
9.6	抗体カクテル療法のノウハウを盛り込んだ動画を制作	4 9 11 17	1.26	「令和 3 年度 実践型地域づくり人材育成プログラム 成果報告会 介護予防・生活支援の充実に向けて」を開催	4 11 16 17
9.9	地域包括ケアシステム推進をリードする「自治体職員向け次世代リーダー育成プログラム」を開講	4 11 16 17	2.3	株式会社スギ薬局と地域医療連携に関する基本協定および共同研究講座の設置に関する契約を締結	4 9 11 17
9.15	中部地方初 国産手術支援ロボット「hinotori™」による 1 例目の手術を実施、無事成功いたしました	4 9 11 17	2.4	ファイザー社の新型コロナワクチン 3 回目追加接種の抗体上昇効果を確認	4 9 16 17
9.17	中部地方初 ECMO カー配備	4 10 11 17	2.16	アーム付きサービスロボットと屋内位置情報サービスを活用した実証実験の実施	9 17
9.21	循環器内科に痛みや入院を伴わない非侵襲的な心臓 CT 解析プログラム FFRct を導入	9 17	2.17	「最後の砦となれ 新型コロナから災害医療へ」が中日新聞社出版部より出版	4 17
9.22	大規模接種会場にて予約不要の新型コロナワクチン接種を実施	9 11 16 17	2.21	SARS-CoV-2 の侵入を阻害するナファモスタット類縁体を世界に先駆けて同定	4 9 17
9.27	世界初 福山型筋ジストロフィーの患者から iPS 細胞を用いて大脳組織を再現し低分子化合物 Mn-007 が有効である可能性を発表	4 9 17	2.25	小児（5 歳～11 歳）の新型コロナワクチン接種を開始	9 11 16 17
10.1	「住み慣れた地元で自分らしい暮らしを続けるために」市民講座を開講	4 11 17	2.25	アルツハイマー型認知症に対する学習を制御する細胞内シグナル伝達経路の解明	4 9
10.4	日本メナード化粧品株式会社と共同で長期間安定的に培養可能な皮膚幹細胞モデルを樹立	4 9 17	3.14	藤田医科大学病院がインスリン依存性糖尿病に対する低侵襲治療、「膵島移植」の中部地方初の保険診療施設に認定	4 9 11 16 17
10.15	2021 年度科学技術振興機構の「共創の場形成支援プログラム」に採択されました	4 9 11 17	3.17	経腸栄養剤が腸内環境に及ぼす新たなメカニズムを解明	4 9 17
10.18	スマートホスピタル実現に向けたサービスロボット実証実験を開始	9 17	3.24	大学病院を有する太平洋沿岸の本学、三重大学、浜松医科大学が医療連携協定を締結	11 13 17
10.18	新規結核治療薬の開発を目的とした国際共同研究プロジェクトが「GHIT Fund」の新規投資案件に採択	1 4 9 16 17	3.28	愛知県サービスロボット社会実装推進事業として「遠隔面会サイネージロボット」の実証実験を実施	9 17